

令和5年度第2回新潟市潟東樋口記念美術館運営協議会 会議概要

日時：令和6年3月7日（木） 午後1時30分から2時30分

場所：潟東地区公民館研修室

出席委員：5名

赤塚久枝、小田一郎、乙川千香、宮沢淳子、山田恵

(五十音順、敬称略)

欠席委員：佐藤正昭

傍聴者：なし

事務局：(潟東地区公民館) 阿部和夫 佐久間美和

(樋口記念美術館) 橋本博文 学芸員 岡本典子 学芸員補助

資料：別添

会議のあらまし

- ・令和5年度2回目の協議会を開催した。
- ・令和5年度の事業報告を行い、意見を求めた。

(1) 令和5年度事業報告について
事務局から概要を説明。

(2) その他
寄付金の受け入れについて事務局から概要を説明。

<意見等>

- ・展示回数が増え、多彩な展示となるとともに、内容も充実したものとなった。
- ・ギャラリートークなどのイベント情報が委員に伝わっていない。改善が必要。
- ・ナイトミュージアムは、美術館の開館時間の延長が必要であるとともに、さらにPRの実施が必要。
- ・小松氏から寄贈を受けた絵の展示場所が暗い。照明の工夫ができないか。

令和5年度第2回 新潟市潟東樋口記念美術館運営協議会次第

日時 令和6年3月7日 13:30

場所 潟東地区公民館第1研修室

1 開 会

2 議 事

(1) 令和5年度事業報告について

(2) その他

3 閉 会

○ 藍の華 筒描展

期 間：4月12日（水）から6月24日（土）

概 要：新潟ハイカラ文庫の笹川コレクションの中から、江戸時代より明治にかけての藍染の布団布の各種吉祥意匠を紹介した。

入場者数：280人

○ 岡村佐久一水彩画展

期間：4月12日（水）から8月16日（水）

概要：交通事故が原因で手足の自由を失った巻出身の岡村佐久一氏の口にくわえた絵筆による風景画・植物画を展示した。ご夫人の書作品もコラボして夫婦愛の伝わる健常者も励まされる展示だった。

入場者数：497人

※筒描展、岡村佐久一展で展示した作品を印刷したクリアファイルを作成し施設PR用資材として広く配布。

○ 安宅安五郎展

期間：7月8日（土）から8月16日（水）

概要：新潟出身の帝展でも活躍した洋画家、安宅安五郎の洋画はもとより日本画を志していた時期の作品も併せて展示・紹介した。特に、洋画の帝展特選を受賞した《砂丘に立つ子供》（新潟大学所蔵）、日本画の紫式部を描いた《中秋》（当館所蔵）は見学者から注目された。

入場者数：190人

○ 尾竹三兄弟と師弟展

期間：9月9日（土）から12月3日（日）

概要：尾竹越堂・竹坡・國観の三兄弟の本人たちの作品だけでなく、その各々の師匠や弟子たちの作品も併せて展示し、その作風のルーツを辿った。その中で、源昌寺所蔵の《寒山拾得と豊干に虎》の屏風は、これまでの三兄弟合作とされていた通説とは異なり、父親倉松の通夜に集った親類縁者と一門を含めた合作であることが判明した点は成果であった。

入場者数：429人

○ 潟の記憶展

期間：1月16日（火）から3月10日（日）

概要：石山与五柴門、古俣近建のモノクローム写真と樋口峰夫の日本画、天野尚の大判カ

ラー写真に記録された鎧潟の作品と、地元イトウ写真館の父親のモノクローム写真をご子息がパソコンでカラー化した《鎧潟》作品を加えて展示した。さらに、それらに添えて地元出身の詩人、国見修二の詩集『鎧潟』掲載の詩をコラボレーションで展示し、作者本人による詩の朗読会も開催した。なお、資料館2階の常設展示、鎧潟の民具も併せて見学いただいた。

○ おひなさま展

期間：1月23日（火）から4月14日（日）

概要：越後お雛様研究会のメンバーからお借りした江戸時代から現代にわたる歴史的な優品のお雛様、現代工芸作品のお雛様、布・紙・木・陶器・磁器・ガラスなど材質の異なるお雛様を展示した。また、併せて尾竹三兄弟を始めとする作家の雛絵の掛け軸作品も飾った。三兄弟揃い踏みは本邦初公開だった。また、地元の潟東保育園、潟東小学校、更生慈仁会すずまり、グループホーム中之口の教育機関・福祉施設との連携で吊るし雛も展示した。

○ 小松明展

期間：1月30日（火）から3月10日（日）

概要：南国四国高知生まれの作家の当地越後の冬の厳しさに魅せられ制作した作品の寄贈を受けた。それを契機に、越後の小松ファンから作品をお借りし、寄贈作品と共に展示した。色紙、巻紙の礼状、カレンダー、スケッチブック、アトリエを映したビデオなども楽しめた。